

事業名		織物技能訓練センター整備事業					
事業の概要		織物技能訓練センターは、織物業の振興を図るため、製織及び織機調整技能の訓練及び染色技術習得の施設として設置され、技術習得のために多くの利用がある。 特に手機の利用が多く、30名を超える利用者が活発に活動しており、13機ある手機では間に合わず、今年度新たに2機追加することとなった。手機を設置している実習室に設置スペースがないため、実習室横の研修スペースに設置したが、研修スペースは扉上部が開放された状態であり冷暖房が利かず利便性が悪い状態となっている。その問題を解消するための改修工事を行う。 ・織物技能訓練センター 建具上間仕切修繕工事					
		事業期間	平成22年7月14日～平成22年8月2日				
		総事業費	397	本年度事業費	397	交付金交付額	198
事業の必要性	織物技能訓練センターは、織物業の振興を図るため、製織及び織機調整技能の訓練及び染色技術習得の施設として設置され、技術習得のために多くの利用がある。しかし手機を設置している一部のスペースは扉上部が開放された状態にあり冷暖房が利かず利便性が悪い状態となっているため利便性の向上のため施設設備の改良を行う必要がある。						
	製織及び織機調整技能の訓練及び染色技術習得を目的として多くの住民が利用しており、施設の利便性の向上により技能習得のための作業効率の向上に繋がる。						
	冷暖房効率の悪い箇所の改修を行うことにより、施設管理費の軽減を期待できる。						
事業評価	1 府と市町村等との連携に資する成果						
	2 住民の自治意識を高める成果 織物技能訓練センターは、住民の利用も多く、技術習得により、織物業の担い手の確保・育成に繋がる重要な施設である。本施設の利便性を向上させることにより、より多くの住民の利用に繋がる。						
	3 リーディング・モデル成果 伝統的な織物技術を習得できる当該施設は利用者も多く、より利用しやすい施設へと整備することにより、当町の総合計画に掲げる「伝統を活かし未来にチャレンジする産業づくり」の実現に繋がる。						
	4 広域的波及成果 本事業により施設の利用者の利便性が向上し、利用者の技術習得により、織物業の担い手の確保・育成に繋がる。						
	5 行財政改革に資する成果 今回の整備により、空調の効率的な効果を得られ、光熱費の抑制に繋がる。						
	6 その他の成果						

(記載要領)

- 1 事業ごとに本様式を作成すること。
- 2 「具体的な成果」欄については、できる限り客観的な数値を掲げて具体的に記載すること。